

第2学期始業式

令和5年9月1日

みなさん、こんにちは。こうして元気なみなさんとともに、2学期の始業式を迎えられたことをうれしく思います。

3年生のみなさん、この夏休み、自分を信じて目標に向かって邁進できましたか？1、2年生のみなさん、新しいことに積極的に挑戦できましたか？夏休みを有意義に過ごせましたか？みなさんの一つ一つの経験や頑張りが、これからの自分の糧になります。

また、日本国内はもちろん、世界でも様々なことが起こりましたが、その国の中だけで完結しないことがたくさんあること、個々の行動や選択が周囲だけではなく、他の国の現状や将来に大きな影響を与えることもたくさんあるということを意識してくれているとうれしいですし、意識することは大切です。

2学期は、言うまでもなく一番長い学期であり、文化祭、体育祭をはじめ多くの学校行事があると共に、次のステップに向かうため、それぞれの課題にじっくり取り組み、力をつける大切な時期でもあります。その中で、みなさんは、あれかこれかの選択を迫られることもあるでしょう。

フランスの哲学者ビュリダンが考えたと言われる寓話をみなさんに紹介したいと思います。

おなかですいたロバが、分かれ道に立っていました。ロバは、左の道と右の道の先に干し草を見つけました。干し草の量はほぼ同じで、どちらの干し草もおいしそうです。「どちらの干し草を食べるのがいいだろうか？」ロバは迷いました。左に2、3歩行くと右の方が良さそうに見える。右に2、3歩行くと左の方が良さそうに思えてくる。そんなことを続けているうちに、ロバはとうとう餓死してしまいました。

さて、みなさんは、この寓話を聞いてどう思いましたか？

みなさんには、様々な場面で周りの状況をしっかり把握し、熟慮した上で、その場に立ち尽くすのではなく、自分の意思で選択して、自分の足で進んでいってほしいと思います。

1学期の終業式には、考えていることを整理し、わかりやすく言葉にして伝えること、そして何よりも相手の話をじっくりと聞き、それを整理し理解する力を磨いてほしいというお話をしました。自分の経験や知識、考えからだけではなく、周囲の状況、次の段階を予想して選択できる思考力、そして選択したことに向けて進む行動力をつけてほしいと思っています。

ムーミンパパも

「自分の知識でしか物事が見えなくなると見えるものを見落としてしまうことがある。」と言っています。

自が興味・関心のあることを仲間と共に探究し、語り合いお互いを高め合うみなさんの姿を期待しています。

最後に、

「山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける」パナソニックの創業者 松下幸之助 氏の言葉です。

課題を解決したり、目標を達成する方法は一つではありません。

みなさん、それぞれの目標に向かって、仲間と共に前進しましょう。

みなさんの活躍を期待し、2学期の始業式の式辞といたします。